

# ウエトララブ

1

## 「たられば」の話

「たられば」の話がある。1993年のサッカーワールドカップ(W杯)最終予選、あの「ドーハの悲劇」がなかったら、日本はその翌年の米W杯本大会で初出場初優勝を成し遂げていたかもしれない。10年の

大相撲九州場所2日目、63連勝でストップした白鵬。稀勢の里に寄り切られなければ、連勝が現在も続いているのかもしれない。

そこで、「この製法が約30年前にあれば、iPS細胞(万能細胞)は誕生しなかったかもしれない」と仮説が出る。



## 本物そっくりの生体組織

臨床医の技向上には定期的な訓練が欠かせない



一見、衝撃的な言い方だが説明はこうだ。12年のノベル生理学医学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授は神戸大学医学部卒業後、研修医としての勤務中

強度...と本物そっくりに仕上げている。

臨床医が実践の場で、手術技能を高める場は実は少ない。ウエトララブ社長の岡野仁夫は「臨床医の技を改善するための定期的な訓練が欠かせない」と説明する。

しかし、日常業務に追われる臨床医は、ヒトの生体に近い動物を使った訓練ができる医療デバイスメーカーの研修センターに出張する時間がなかなか作れない現状がある。

### 場所を選ばない

そのために、技能訓練の

場所を選ばない疑似生体モデルが臨床医のスキルを高めるために大いに役立つ。

ただ、岡野は「疑似生体モデルの主流はシリコンやゴム、フェルト製で、ヒトの生体組織と異なり、水分をほとんど含まないため、外科手術で重要な切削、縫合、触感が出せないことが大きな欠点」と冷静に状況を把握していた。見た目がオモチャのような臓器なら医師のモチベーションは上がらず、技能習熟につながる。だからこそ「ホンモノ」にこだわったウエ

トラブのPVA疑似生体モデルは各分野の著名医師に高い評価を得ている。今では疑似骨も手掛けるようになった。

### 一足飛びに

手術下手で整形外科医になる夢をあきらめる挫折を味わった山中教授に当時、このモデルがあれば、歴史は塗り替えられていたかもしれない。ベンチャー設立からまだ2年未滿。ウエトラブのPVA製品はiPS細胞並みのスピードで、普及拡大の階段を一足飛びに駆け上がっている。

(敬称略)

# 臨床医の「技能」高める

▽所在地 〓 大津市瀬田大江町横谷1の5 龍谷エクステンションセンター201、077-543-7818  
▽社長 〓 岡野仁夫氏  
▽売上高 〓 非公開  
▽従業員 〓 7人  
▽資本金 〓 1400万円  
▽URL 〓 www.welab.jp